

外科専門医に聞く

副院長（外科部長）

かどや なおたか
角谷 直孝

外科について



外科は、市民の皆様にとって内科や整形外科と違ってややなじみの薄い診療科かもしれません。そこで今回は富山ろうさい病院の外科について紹介させていただきます。

もともと日本では、外科は早い時期に脳外科や整形外科、形成外科などが専門診療科として分離、独立し、その後心臓外科や胸部外科、血管外科、小児外科が、最近では乳腺外科、内分泌外科（甲状腺外科、副腎外科）などが専門診療科として独立して、今では外科といえばほぼ消化器外科（おなかの外科）を指し、さらに肛門外科、その

他ヘルニア（脱腸）などを扱う一般外科を含めて外科と呼ばれることが一般的です。

さらに消化器外科の中でも食道の手術は特に専門性が高く胸を開く操作が必要なため、消化器外科ではなく胸部外科で取り扱う病院もあります。最近では内分泌外科の中で甲状腺外科は胸部外科が取り扱い、副腎の手術は泌尿器科が扱うことが普通となっています。私が外科医としてトレーニングを開始した30年以上前には、外科では消化器外科や乳腺外科、肛門外科やヘルニア（脱腸）などの一般外科さらに甲状腺外科はもちろん、副腎や耳下腺の手術などもその守備範囲でしたが、耳下腺の手術は現在では耳鼻科の領域となっています。

現在、富山ろうさい病院の外科では消化器外科、乳腺外科、肛門外科、その他ヘルニア（脱腸）などの一般外科の手術を取り扱っています。スタッフは4名で1名が消化器外科の指導医かつ専門医で2名が消化器外科の専門医です。行っている手術は虫垂炎、憩室炎、胆嚢炎、その他の腹膜炎や腸閉塞などの急性腹症の手術や外傷による内臓損傷の手術、胃癌や大腸癌の手術、肝臓、脾臓、胆嚢、胆管の癌や乳癌の手術が中心となっています。そのほか、ヘルニア（脱腸）の手術や痔核、脱肛などの肛門外科も得意分野です。

これらの中で最近増えているのが腹腔鏡を用いた手術で、富山ろうさい病院外科でも現在、広くこれらの手術が行われています。胃癌では早期の症例に、大腸癌ではほとんどの症例に対して、胆嚢やヘルニア（脱腸）手術でも大部分の症例で腹腔鏡を用いた手術が中心となって行われています。体に優しい手術である腹腔鏡の手術は今後ますます増加していくと考えられます。手術後はHCUと呼ばれる集中治療室で治療を行い、その後一般病棟に移ります。スタッフは外科医2名がペアとなって2チーム体制で365日、夜間や休日の緊急手術にも対応しています。

このように富山ろうさい病院外科では、急性腹症や外傷に対する緊急手術はもちろん、癌に対する腹腔鏡を用いた高度な手術や難易度の高い癌の手術に対しても、専門医3人体制で対応しており、その手術成績は他の大病院や専門病院に比べて遜色ないものと自負しています。魚津市民の皆様への期待に応えるために、今後も努力して行くつもりですので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。